

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果



ひとが咲くまち。
ひたちなか

ひたちなか市教育委員会事務局指導課

目 次

1	全国学力・学習状況調査平均正答率等（茨城県・全国）	1
2	児童生徒質問紙調査	4 ～ 8
3	学校質問紙調査	9 ～ 11
4	小学校 国語	12 ～ 14
5	小学校 算数	15 ～ 17
6	中学校 国語	18 ～ 20
7	中学校 数学	21 ～ 23
8	中学校 理科	24 ～ 26

令和8年度全国学力・学習状況調査

1 平均正答率（％）

- 本市全体の平均正答率は全国と比較して、中学校数学は大きく上回っている。小学校国語、中学校国語は上回っている。中学校英語はほぼ同じ、小学校算数はやや下回っている。

学校種	小 学 校			中 学 校		
教科	国語	算数		国語	数学	英語
茨城県	61	55		65	57	494
全国	60.9	56.4		63.9	57.0	499

※中学校英語は、IRTスコア集計値

2 小学校国語

- 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率75％以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
2 三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	78.8%	80.0%
3 一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	74.7%	76.7%

(2) 課題の見られた設問（正答率50％以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
2 三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	36.3%	45.2%
2 四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	41.2%	33.5%

3 小学校算数

- 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率75％以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	92.8%	94.5%
4 (2)	示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる	76.2%	78.1%
4 (4)	帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる	73.1%	74.9%

(2) 課題の見られた設問（正答率50％以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
1 (3)	体積の意味について理解しているかどうかをみる	40.7%	40.1%
1 (4)	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	45.2%	45.2%
2 (3)	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる	34.5%	36.1%
2 (4)	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	32.1%	34.2%
3 (3)	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	42.9%	44.0%
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	16.0%	17.9%

令和8年度全国学力・学習状況調査

4 中学校国語

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率75%以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
1一	助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる	83.8%	84.3%
1三	単語の活用について理解しているかどうかをみる	85.7%	85.4%
2三	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	71.5%	70.4%
3二	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	92.5%	92.3%

(2) 課題の見られた設問（正答率50%以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
3一	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	43.1%	39.8%
3四	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる	45.5%	45.0%
4二	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	33.3%	35.2%
4四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	37.5%	38.9%

5 中学校数学

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率75%以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
1	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	85.1%	85.7%
6(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	76.3%	73.2%
7(1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	73.0%	75.2%
9(2)	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる	75.4%	75.8%

(2) 課題の見られた設問（正答率50%以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
3	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる	44.1%	49.1%
6(3)	統一的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	45.5%	44.6%
7(2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	36.4%	33.9%
8(2)	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	38.8%	46.1%
8(3)	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる	35.8%	37.1%
9(1)	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	43.4%	46.0%

令和8年度全国学力・学習状況調査

6 中学校英語

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率75%以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
2	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	78.2%	78.5%
3	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	76.0%	76.0%
7	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	72.3%	72.4%

(2) 課題の見られた設問（正答率50%以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率	
		本県	全国
4	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる	46.8%	43.8%
10（1）	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	44.3%	47.5%
10（2）	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	26.7%	27.8%
14	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	26.5%	27.8%

中学校英語は、CBT（コンピュータ使用型調査）、IRT（項目反応理論）を用いて実施。

令和8年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

1 「生活面に関わる内容」

(1) < 基本的生活習慣、規範意識 >

1 「朝食を毎日食べているか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか、起きているか」という質問に対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学校(以下児童とする)、中学校(以下生徒とする)とも全国より上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
朝食を毎日食べている。(小・中1)	R8	94.0	93.4	93.3	92.5	91.1	90.9
	R7	95.3	93.7	93.7	93.1	91.8	91.2
	R6	94.7	93.7	93.7	93.9	91.7	91.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。(小・中2)	R8	84.8	84.3	82.8	82.9	81.0	80.5
	R7	85.1	83.0	81.9	83.2	81.2	81.0
	R6	86.6	84.0	82.9	84.8	81.7	80.7
毎日、同じくらいの時刻に起きている。(小・中3)	R8	92.0	91.6	90.7	93.8	92.9	92.4
	R7	94.7	91.9	91.0	93.4	92.8	92.6
	R6	93.9	92.3	91.6	94.7	92.9	92.5

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

(2) < 自尊感情、将来に関する意識 >

1 自分自身に関する質問について

「自分には、よいところがあるか。」「将来の夢や目標を持っている。」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、国の平均を上回っている。自己肯定感が高く、夢や希望をもっている児童生徒が多いといえる。

2 いじめに関する質問について

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国の平均を上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
自分には、よいところがあると思う。(小・中8)	R8	87.4	85.2	85.6	84.7	83.0	84.0
	R7	88.2	86.5	86.9	87.2	85.8	86.2
	R6	85.4	82.7	84.1	85.0	82.7	83.3
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。(小・中9)	R8	91.3	90.7	91.4	91.8	90.9	90.9
	R7	93.3	91.7	92.2	93.2	92.5	92.2
	R6	92.5	89.1	89.9	92.5	90.8	90.4
将来の夢や目標を持っている。(小・中10)	R8	83.1	83.3	81.8	70.3	69.0	67.6
	R7	85.2	85.2	83.1	69.7	69.3	67.5
	R6	85.8	84.7	82.4	66.3	68.0	66.3
人が困っているときは、進んで助けている。(小・中11)	R8	93.3	93.0	92.7	91.3	90.7	90.8
	R7	94.4	94.2	93.7	92.5	91.1	90.9
	R6	94.9	93.1	92.7	91.7	90.3	90.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(小・中12)	R8	97.2	96.1	96.2	96.4	95.5	95.1
	R7	98.0	97.4	97.2	96.7	96.3	95.9
	R6	98.0	97.1	96.7	96.7	96.1	95.7
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。(小・中13)	R8	72.1	70.9	70.6	69.3	70.5	71.9
	R7	70.6	70.1	70.6	74.9	71.9	73.2
	R6	69.1	66.8	67.1	70.5	65.1	67.5
人の役に立つ人間になりたい。(小・中14)	R8	95.8	95.6	95.8	96.7	96.0	95.9
	R7	96.8	96.0	96.4	97.1	97.0	96.6
	R6	96.7	96.0	95.9	96.5	95.4	95.2

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

	全国平均を+5、県平均を上回っている項目
	全国、県平均を下回っている項目

令和8年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

(3) その他

1 魅力ある学校に関して

・「学校に行くのは楽しいか。」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童割合は全国と比較して大きく上回っている。

2 友人関係について

・「友達関係に満足していますか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国と比較して大きく上回っている。学校や友人に対して、肯定的に捉えている児童生徒が多い。

3 ウェルビーイングに関して

・「幸せな気持ちになることはどれくらいあるか。」という設問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国と比較して上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
学校に行くのは楽しいと思う。(小・中15)	R8	89.3	86.8	85.7	87.7	85.5	85.4
	R7	91.6	87.8	86.5	89.2	86.3	86.1
	R6	89.5	86.6	84.8	86.2	83.9	83.8
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。(小・中16)	R8	83.0	79.9	77.9	87.7	85.5	85.4
	R7	83.5	79.5	78.1	80.8	79.0	79.2
	R6	83.0	77.7	75.8	80.7	76.1	76.2
友達関係に満足している。(小・中17)	R8	94.2	92.0	91.1	94.5	91.4	91.2
	R7	94.5	92.7	91.7	91.8	91.4	91.4
	R6	93.7	92.1	91.1	92.7	90.6	90.1
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。(小・中21)	R8	93.2	91.9	92.5	91.7	90.7	91
	R7	95.1	93	93	92.2	91.5	91.6
	R6	92.7	91.4	91.7	91.1	89.4	89.8

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和8年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

2 「学習面に関わる内容」

(1) <学習に対する関心・意欲・態度>

1 各教科の興味関心、理解について

・「国語の勉強が好き。」という質問に対し、肯定的に回答した児童の割合は、全国と比較して上回っている。生徒の割合は、大きく上回っている。

・「算数・数学の勉強が好き。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っている。

・「英語の勉強が好き。」という質問に対し、肯定的に回答した生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っている。

・「国語や算数・数学の授業内容がよくわかる。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っている。

2 ICT活用について

・昨年までの授業でコンピュータなどのICTを週3回以上使用した生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っている。

・PC・タブレットなどのICT機器で、「情報を整理することができると思う。」「学校のプレゼンテーションを作成することができると思う。」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
国語の勉強は好きだ。(小・中53)	R8	59.7	57.9	57.4	61.0	58.6	57.2
	R7	62.9	60.7	58.3	58.2	60.2	57.9
	R6	71.3	64.0	62.0	65.5	66.1	64.3
国語の授業の内容はよく分かる。(小・中54)	R8	85.5	81.9	81.5	84.1	79.4	76.8
	R7	88.1	84.4	82.8	82.8	80.2	77.0
	R6	92.2	87.6	86.3	89.9	85.4	82.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(小・中55)	R8	91.9	91.3	90.4	93.1	89.2	88.2
	R7	92.6	91.0	90.4	89.4	88.9	88.3
	R6	95.6	94.2	93.2	93.2	91.4	90.6
算数・数学の勉強は好きだ。(小・中61)	R8	61.9	58.0	57.6	59.8	57.4	56.1
	R7	62.3	58.0	57.9	55.3	53.6	53.8
	R6	65.0	60.9	61.0	56.8	55.0	57.2
算数・数学の授業の内容はよく分かる。(小・中62)	R8	83.2	78.0	77.5	81.3	74.6	74.2
	R7	84.5	78.8	78.3	77.6	70.4	70.3
	R6	88.3	83.0	82.1	80.8	74.7	75.7
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(小・中63)	R8	93.0	91.5	91.0	81.8	78.6	76.5
	R7	91.7	91.6	91.6	77.5	76.4	75.2
	R6	95.2	94.6	94.1	82.0	79.9	78.5
英語の勉強は好きだ(小・中70)	R8	70.5	67.5	66.7	59.1	52.0	51.2
将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい(小71・中73)	R8	50.5	47.2	45.4	35.7	36.1	34.1
これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった。(小72・中75)	R8	51.3	48.3	46.2	41.0	39.9	36.6
昨年度までの授業でコンピュータなどのICTを週3回以上使用した。(小・中35)	R8	68.5	68.5	68.8	93.2	85.8	77.7
	R7	74.0	72.7	71.7	92.3	86.7	76.5
	R6	60.2	59.9	59.5	85.2	77.9	64.4

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和8年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

PC・タブレットなどのICT機器で（R7新設）							
文章を作成することができると思う。（小・中36－1）	R8	81.7	79.4	79.1	88.5	86.5	84.8
	R7	83.0	81.2	81.8	88.5	85.5	83.6
情報を整理することができると思う。（小・中36－3）	R8	73.1	70.6	69.5	77.9	72.0	69.4
	R7	70.7	68.8	69.3	71.5	66.4	63.3
学校のプレゼンテーションを作成することができると思う。（小・中36－4）	R8	79.3	78.0	74.6	85.4	82.7	80.0
	R7	82.1	79.2	76.7	84.6	80.4	76.6

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

(2) 学び方(主体的・対話的で深い学び)に関する内容

1 学習について

昨年までの授業で、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っている。

2 総合的な学習の時間について

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
昨年までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか(小・中38)	R8	67.9	66.3	66.4	73.4	65.2	65.5
	R7	69.1	68.6	68.6	67.3	62.5	63.0
	R6	70.8	65.8	67.6	66.9	63.6	64.8
昨年までの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。(小・中39)	R8	80.8	79.2	77.6	84.0	79.4	78.8
	R7	83.4	81.1	80.3	81.3	79.3	77.7
	R6	86.8	83.1	81.9	83.7	80.9	80.3
昨年までの授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか。(小・中40)	R8	75.9	74.4	73.4	75.5	71.9	70.8
	R7	79.9	78.9	77.8	74.6	73.3	70.6
	R6	85.1	81.5	79.6	81.3	77.1	75.4
昨年までの授業で、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか。(小・中41)	R8	83.1	80.8	80.8	81.4	78.7	78.9
	R7	88.0	84.8	83.4	85.2	80.6	79.3
	R6	89.8	85.8	84.3	82.6	81.4	80.9
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりことができているか。(小・中42)	R8	87.1	86.3	85.7	90.9	87.4	87.0
	R7	86.5	85.0	84.9	86.2	84.8	84.7
	R6	91.6	87.1	86.3	90.3	86.9	86.1
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか。(小・中43)	R8	81.4	79.9	78.4	83.4	80.5	79.0
	R7	83.3	80.2	79.4	76.5	74.6	73.4
	R6	87.8	82.8	80.8	81.2	78.2	77.9
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(小・中47)	R8	84.5	81.1	79.9	87.0	81.4	80.8
	R7	85.6	82.8	82.3	84.1	80.8	79.5
	R6	86.0	82.2	81.3	88.6	83.0	82.2

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和8年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

(3) 話し合い活動に関する内容

1 学級をよりよくする活動について

「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国よりも大きく上回っている。

2 学級活動について

「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。」という質問に対し、肯定的に回答している回答した児童の割合は、全国より上回っている。生徒の割合は大きく上回っている。

3 道徳の授業について

「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか。」という質問に対し、肯定的に回答している児童の割合は、全国より大きく上回っている。生徒の割合は上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。 (小・中49)	R8	85.3	83.5	81.5	90.4	86.5	84.5
	R7	87.3	84.2	83.3	89.9	86.9	84.3
	R6	91.5	86.3	84.2	90.4	88.3	86.3
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。(小・中50)	R8	79.0	79.1	77.3	84.5	79.7	77.8
	R7	83.0	81.3	80.8	82.8	79.2	77.3
	R6	88.8	83.6	82.5	85.8	81.8	80.6
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。(小・中51)	R8	90.1	88.3	86.9	92.9	91.6	91.3
	R7	89.4	88.6	88.0	93.9	91.6	91.5
	R6	92.0	89.1	88.2	93.5	92.4	91.7

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和8年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

1 ICTを活用した学習状況				小・中学校の割合（％）			
質問項目（ ）は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
前年度までに、一人一人に配備されたタブレット等のICT機器を活用した授業を、ほぼ毎日実施した。(小60・中68)	R8	100.0	87.5	82.8	87.5	89.0	82.3
	R7	100.0	92.6	84.8	100.0	95.7	82.8
	R6	77.8	74.9	69.0	87.5	81.7	67.5
自分で調べる場面では、児童生徒一人一人に配備されたICT機器を週3回以上使用した。(小61・中69)	R8	72.2	80.5	75.4	75.0	79.7	71.2
	R7	77.8	80.5	72.9	62.5	86.0	71.2
	R6	77.7	84.0	76.6	75.0	83.8	70.4
自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT機器を週3回以上使用した。(小62・中70)	R8	50.0	52.8	51.9	50.0	68.5	47.9
	R7	50.0	59.5	52.2	25.0	69.3	52.3
	R6	83.4	62.4	55.1	50.0	68.5	51.9
教職員と児童生徒がやりとりをする場面では、ICT機器を週3回以上使用した。(小63・中71)	R8	50.0	61.5	58.0	62.5	63.7	53.8
	R7	61.1	69.8	61.4	62.5	68.9	55.9
	R6	83.3	66.1	59.7	62.5	72.8	57.4
児童生徒同士がやりとりをする場面で、ICT機器を週3回以上使用した。(小64・中72)	R8	27.8	45.2	42.5	37.5	47.8	36.1
	R7	33.3	53.9	46.3	62.5	55.3	39.3
	R6	55.6	54.1	45.0	75.0	60.4	41.1
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレット等を週3回以上使用した。(小65・中73)	R8	61.1	57.1	49.9	50.0	53.1	40.8
	R7	38.9	58.8	51.0	37.5	54.8	41.2
	R6	72.2	60.6	52.8	62.5	54.1	42.2
タブレット端末をどの程度家庭で利用できるようにしていたか。「毎日持ち帰って、毎日・時々利用した」(小67・中75)	R8	22.2	53.3	43.2	50.0	69.9	53.2
	R7	22.3	50.8	40.2	37.5	70.6	49.5
	R6	5.6	46.5	36.2	37.5	69.8	45.5
PC・タブレット端末を、不登校児童に対する学習活動等の支援に週3回以上使用した。(小70-1・中78-1)	R8	33.4	25.4	21.3	75.0	51.4	37.9
	R7	44.4	26.4	24.2	50.0	46.5	39.3
	R6	38.9	31.3	26.9	62.5	55.4	38.5

※「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

令和8年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

2 学校運営に関する状況、教職員の資質向上に関する状況					小・中学校の割合（％）		
質問項目（ ）は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて月に数回程度話し合うことを行った。(小・中14)	R8	83.3	82.1	79.5	50.0	78.3	65.2
	R7	83.4	86.1	79.1	62.5	78.5	64.9
	R6	94.4	85.6	78.9	87.5	74.5	64.7
教員が学級の問題を抱えている場合、月に数回程度ともに問題解決に当たった。(小・中15)	R8	100.0	94.1	89.4	75.0	91.5	79.0
	R7	94.4	92.9	88.5	75.0	86.4	78.0
	R6	100.0	94.5	87.5	87.5	87.3	77.3
ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れている。(小・中16)	R8	33.3	50.1	44.0	75.0	50.4	40.4
	R7	44.4	39.6	34.7	25.0	43.0	32.7
	R6	61.1	41.2	32.8	37.5	41.3	28.8
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実践し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルがよく確立している。(小・中17)	R8	44.4	60.5	42.5	75.0	48.7	38.6
	R7	50.0	56.6	44.3	62.5	52.2	40.1
	R6	61.1	53.0	40.4	100.0	55.7	40.5
指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながらよく効果的に組み合わせている(小・中18)	R8	50.0	64.4	51.5	50.0	50.9	37.6
	R7	66.7	60.2	52.2	25.0	43.0	37.4
	R6	72.2	54.3	48.1	37.5	40.0	36.0

3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況							
質問項目（ ）は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。(小・中26)	R8	94.4	91.0	88.1	100.0	93.0	87.2
	R7	94.4	94.7	89.3	87.5	93.4	88.2
	R6	77.7	92.0	88.2	75.0	91.9	88.4
授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行っている。(小・中27)	R8	94.5	83.9	78.9	87.5	85.0	81.4
	R7	83.4	86.6	80.4	87.5	88.2	82.8
	R6	88.9	83.1	78.3	75.0	86.4	82.7
学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。(小・中28)	R8	94.5	91.4	87.8	87.5	90.3	89.4
	R7	94.4	91.9	89.2	100.0	93.4	90.8
	R6	88.9	89.8	87.2	75.0	94.9	89.7
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。(小・中36)	R8	94.4	91.2	87.0	87.5	88.1	79.9
	R7	94.5	92.4	86.9	100.0	89.1	80.3
	R6	100.0	92.5	85.7	100.0	85.1	78.6

※「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

令和8年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

4 学習規律、学習スキル等の指導の工夫(生徒指導)				小・中学校の割合(%)			
質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
児童生徒は、熱意をもって勉強している。(小・中7) ※R6はなし	R8	94.4	90.7	88.9	87.5	89.3	85.1
	R7	88.9	93.8	90.3	87.5	90.4	86.5
	R6						
児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。(小・中8)	R8	94.4	86.8	83.9	100.0	90.2	90.7
	R7	72.2	88.8	85.9	100.0	92.5	92.0
	R6	100.0	88.7	85.5	100.0	95.8	93.8
前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた。(小81・中89)	R8	100.0	97.0	96.6	100.0	95.6	91.2
	R7	100.0	97.3	96.6	87.5	93.4	92.8
	R6	100.0	97.8	96.1	100.0	95.3	91.9
前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かした。(小83・中91)	R8	94.4	92.3	90.5	87.5	91.1	83.2
	R7	94.4	93.5	90.4	75.0	86.4	84.0
	R6	94.4	93.5	87.8	87.5	88.5	82.8
5 特別な配慮が必要な児童生徒への指導							
質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
前年度までに、児童生徒に対する授業の中で、発達障害を含む障害のある児童生徒も含めた、多様な児童生徒が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行った。(小72・中81)	R8	100.0	98.7	98.8	100.0	95.6	96.0
	R7	100.0	98.5	97.4	100.0	97.3	96.9
	R6	88.9	98.0	94.9	87.5	97.4	94.0
6 小学校教育と中学校教育の連携							
前年度までに、近隣の中学校(小学校)等と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。(小76・中84)	R8	61.1	71.4	67.0	37.5	74.3	72.0
	R7	44.5	72.5	65.3	25.0	68.4	71.7
	R6	50.0	72.8	64.0	37.5	73.6	69.0
7 家庭や地域との連携等							
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった。(小79・中87)	R8	100.0	92.5	89.1	87.5	86.7	84.4
	R7	100.0	95.7	93.3	100.0	89.5	89.0
	R6	100.0	89.1	88.9	100.0	83.0	84.1

※「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

小学校国語

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は全国を上回り、県をやや上回った。
- 学習指導要領の内容別に見ると、「知識及び技能」の平均正答率は全国・県より上回っている。「思考力、判断力、表現力等」の平均正答率は「A 話すこと・聞くこと」は全国・県を上回り、「B 書くこと」は全国を大きく上回り、県を上回っている。しかしながら「C 読むこと」は全国を下回り、県をやや下回った。
- 問題形式別に見ると、「選択式」は全国・県を上回り、「短答式」は県を大きく上回っているが、全国をやや下回っている。「記述式」は全国を上回り、県とほぼ同じである。

【課題】学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

②三イは、文中に示された「ふしぎ」を漢字で書く設問で、出題の趣旨は、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみるものである。

本市の正答率は、全国をやや上回り、県を大きく上回っているが、全体の正答率が5割を下回っている。「議」を「義」「疑」「気」などと解答している児童が見られた。漢字がもつ意味を考えて使う習慣が身に付いていなかったり、漢字の由来や特質などについての理解が十分でなかったりする児童が見られた。

指導のポイント

- 学年別漢字配当表の漢字について、当該学年までに配当されている漢字を読んだり、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書いたり、文や文章の中で使うことができるようにする。また、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにするため、次のような学習活動を取り入れていくことが考えられる。
 - ・ 個々の漢字を形式的に覚えるだけでなく、へんやつくりなど漢字の構成から意味を想像して調べたり、話し合ったりする活動を通して、同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いに着目して漢字の特徴を理解することが大切である。
 - ・ 「同じ音で読む漢字」「似た形の漢字」「間違いやすい漢字」を集めてカードや短冊にして教室に掲示するなど、日常的に漢字に触れることができる言語環境を整え、漢字に対する興味や関心、字形に対する意識を高めることが大切である。
 - ・ 「不思議」と同様の構成になっている語句（不都合、不気味などの三字熟語）を集める活動を通して、語の組み合わせや構成に対する理解を深めさせることが大切である。
 - ・ ICT端末を活用して文章を書く機会が増えているが、必要に応じて国語辞典や漢字辞典で調べる習慣を付けることも大切である。索引の使い方などの辞典の使い方や特色等について理解を深め、語彙を広げることができるようにすることも重要である。

関 連

解説資料P20～30、報告書P43～64（授業アイデア例を含む）

小学校国語

【課題】引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

〔2〕四は、調べた本や文章から必要な情報を引用しながら自分の考えを書く記述式の設問で、出題の趣旨は、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみるものである。

本市の正答率を見ると、全国を大きく上回り、県をやや上回っているが、全体の正答率が5割を下回っている。引用する本の題名や本文の一部を正しく選んで抜き出せているがかぎ（「 」）でくくっていない解答や自分の考えを書いていない解答が見られる。引用の目的を意識できていなかったり、集めた情報の内容を自分の考えのように書いてしまい、引用部分と自分の考えを区別して書くことができなかった児童が見られた。

指導のポイント

- 文章や情報を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるようにするため、次のような学習活動を取り入れていくことが考えられる。
- ・ 引用する目的や必要性を確かめさせ、読み手を納得させるための根拠として引用を活用する意識をもたせることが大切である。
- ・ かぎ（「 」）でくくって示すことが、著作権を尊重し、他者の考えを保護するのに必要な手続きであることを理解させることが重要である。
- ・ 文章を作成する際に、出典（本の題名や著者名）を明確に記載させるとともに、本文から抜き出した言葉をかぎ（「 」）で正確にくくらせることで、引用部分と自らの考えを明確に区別して記述させる指導が大切である。
- ・ 自分の体験のみで書いた文章と本から適切に引用して書いた文章を提示して読み比べる活動を通して、引用によって主張の説得力が増す効果やよさを児童が実感できるようにすることが有効である。また、情報の信頼性・妥当性・客観性について確かめる方法についても取り上げ、複数の情報を比べながら、最も効果的な情報であるかどうかを判断して選択できるようにすることも大切である。
- ・ 児童同士が書き上げた文章を相互に読み合い、かぎ（「 」）や出典の記載等の引用の手順が正しいかを確かめ合ったり、引用する部分を選んだ意図や目的について交流して自分の考えを明確にしたり、推敲したりする活動を取り入れることが大切である。

関 連

解説資料P20～30、報告書P43～64（授業アイデア例を含む）

小学校国語

【課題】 目的に応じて、必要な情報を見付ける。

③三（１）は、文章で取り上げられている事例について、自分に置き換えたものとして適切なものを選択する設問で、出題の趣旨は、目的に応じて、必要な情報を具体的に関連付けることができるかどうかをみるものである。

本市の正答率は全国をやや下回り、県を下回っている。また、無回答率は全国・県をともにやや上回っている。すべてをひとくくりにして「苦手」を「嫌い」と考えるべきではないという筆者の考えは理解できているが、「苦手でも好きなこと」という言葉を再構築して、文章に合った自身の具体的な経験を結びつけることに課題が見られた。

指導のポイント

- 目的に応じて、必要な情報を具体的に関連付けることができるようにするため、次のような学習活動を取り入れていくことが考えられる。
- ・ 文章などを読む活動において、筆者が提示した具体的な事例や主張のポイントを読み取った上で、自分自身の生活の中で当てはまる場面を考えて、筆者の考えを自分の具体的な体験に置き換えて捉え直すことが大切である。
- ・ 自分の経験の中から筆者の事例と関わりのあるものを取り上げ、自分の経験とどのような関係（共通点や相違点など）があるかを整理させることが効果的である。
- ・ 「得意か苦手か」「好きか嫌いか」などの条件を整理しながら、筆者の主張や意図に最も適した自分の経験を意図的に選ぶ活動を取り入れることが大切である。その際に、ＩＣＴ端末を活用しながら語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりするなど、図で示しながら整理することが効果的である。
- ・ 文章に書かれている具体的な言葉をそのまま抜き出すだけでなく、全体を俯瞰して筆者の伝えたい要旨を把握し、目的に応じて必要な情報を見付けて、自分なりの言葉や事例に置き換えて表現させる指導の充実を図ることが大切である。
- ・ 文章の心に残ったところやその理由などを学級全体で共有し、整理することで、自身の経験を想起する視点を共有することが大切である。
- ・ 筆者の考えと関連する自分の事例を、文章全体の構成や趣旨を踏まえて自分の言葉でまとめ直し、理由や根拠を説明し合う場面を設定することが効果的である。
- ・ 友達同士で説明し合う活動を設定し、具体的な経験に触れる活動を通して、自身の経験や考えをより明確にすることが大切である。

関 連

解説資料 P31～41、報告書 P65～83（授業アイデア例を含む）

小学校算数

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は、全国よりやや下回っている。県より上回っている。
- 領域別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「A 数と計算」：全国よりやや下回っている。県より上回っている。
 - 「B 図形」「D データの活用」：全国よりやや下回っている。県よりやや上回っている。
 - 「C 測定」：全国より下回っている。県よりやや上回っている。
 - 「C 変化と関係」：全国とほぼ同じである。県より上回っている。
- 評価の観点別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「知識・技能」：全国よりやや下回っている。県より上回っている。
 - 「思考・判断・表現」：全国よりやや下回っている。県よりやや上回っている。
- 問題形式別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「選択式」：全国とほぼ同じである。県より上回っている。
 - 「短答式」：全国よりやや下回っている。県よりやや上回っている。
 - 「記述式」：全国より下回っている。県よりやや下回っている。

小学校算数

【課題】立方体の体積の計算による求め方について、一定数の児童は理解しているが、課題がある

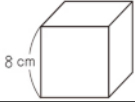
①(1)の出題の趣旨は、立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみることである。

本市の正答率は、全国より下回っており、県よりやや下回っている。解答類型で一番多い誤答が「 8×8 や $8 + 8 + 8$ 以外の解答」であった。体積を求める式「一辺 $\times$ 一辺 $\times$ 一辺」の基礎・基本的な知識の理解が不十分である児童の割合が全国・県と比べて多い。

①

立方体や直方体について考えます。

(1) 1 辺が 8 cm の立方体の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。



指導のポイント

- 図形を構成する要素に着目し、立方体と直方体について辺の長さや面の形に着目し、双方の違いについて理解できるようにすることが大切である。
- 図形を構成する要素に着目し、立方体や直方体の体積が、縦、横、高さの長さを使って計算で求められることを理解できるようにすることが大切である。
 - ・長方形や正方形の面積の求め方を基にして、直方体や立方体の体積の求め方を類推的に考え、体積の計算による求め方を考察する活動が考えられる。

関 連

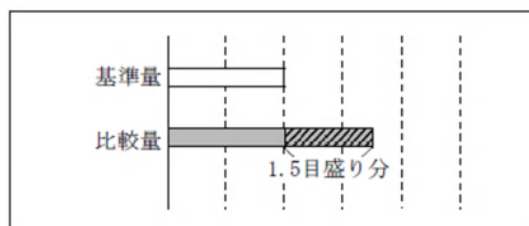
解説資料 P 15～16、報告書 P 28～29（授業アイデア例を含む）

小学校算数

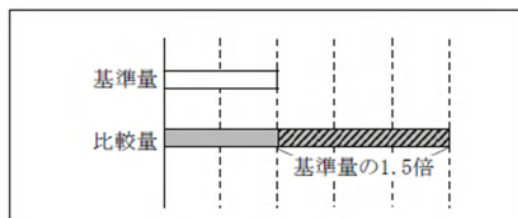
【課題】示された基準量と割合から、比較量を捉えること

②(4)の問題の趣旨は基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみることである。

本市の正答率は、全国より下回っており、県よりやや上回っている。特に多かった誤答は「イとエ」を選択した児童の割合が最も多く、正答した児童生徒の割合を上回っている。「イとエ」を選択した児童は、基準量の1.5倍に当たる比較量を、右のように基準量より1.5目盛り分多い量であると誤って捉えていると考えられる。



次に多い誤答が「ウとカ」を選択した児童である。「ウとカ」を選択した児童は、基準量の1.5倍に当たる比較量を、右のように基準量と基準量の1.5倍を合わせた量であると誤って捉えていると考えられる。



指導のポイント

- 示された基準量と割合から、比較量を捉えることができるようにする。
 - ・ 示された基準量に対して、様々な比較量がどれだけに当たるかを、図を通して考える活動が考えられる。その際、基準量とその2倍や3倍に当たる量を比較することを通して基準量の1倍や1.5倍、2.5倍の意味を理解できるようにすることが大切である。
 - ・ 基準量の1.5倍に当たる量は、基準量を1と見たときに、1.5に当たる量であることを捉え、割合についての理解を深めることができるようにすることが大切である。
- 日常生活の様々な問題場面において事象を数理的に捉え、数量の関係に着目し、基準量比較量、割合の関係や、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるようにする。
 - ・ 割合の学習では、二つの数量の差で比べるよりも、割合を用いて比べた方が適切に比べることができる場面があることを捉えることができるようにすることが大切である。
 - ・ 単位量当たりの大きさの学習では、単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味と求めた数量の大小で何が判断できるのかを捉えることができるようにすることが大切である。

関 連

解説資料P32～34、報告書P56～67（授業アイデア例を含む）

小学校算数

【課題】二次元の表から、条件に合う数を読み取る

④(3)の出題の趣旨は、二次元の表から条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみるものである。

本市の正答率は、全国よりやや上回っており、県より上回っているが、全体の正答率が2割を下回っている。特に多かった誤答例が前半にあやとりに参加する人数は正答できているが、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数で誤答となっている児童が多い。つまり、示された二次元の表の二つの観点を捉え、各欄の意味について十分な理解ができていない児童が見られる。

(3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する1年生の人数を下の表にまとめた。

前半と後半の遊びごとの人数				(人)
		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する1年生にひもをわたします。わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は ② 人です。

前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ④ 人です。

上の②、④に入る数を、それぞれ書きましょう。

指導のポイント

- 問題を解決するために二次元の表を作成したり、必要な数値を読み取ったりすることができるようにする。
 - ・表の一部を隠して読み取れる数値を限定し、一つの観点から数値を読み取る活動を取り入れていくことが考えられる。
 - ・合計はその行や列の数値を合わせた数であることを理解できるようにすることが大切である。
 - ・読み取りたい場合について二つの項目を順序よく迫ったり、読み取った数値がどのような場合なのかを捉えたりできるようにすることが大切である。
- 日常生活の問題を解決するためにデータを集め、目的に応じて表やグラフを作成し、表やグラフから見出したことを表現することができるようにする。
 - ・実際に児童にアンケートをとり、二次元の表を作成する活動をとおして、データを二つの観点から分類整理する方法について理解できるようにする活動が考えられる。

関 連

解説資料P58～59、報告書P98～101（授業アイディア例を含む）

中学校国語

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は全国・県より上回った。
- 学習指導要領の内容別で見ると、すべての区分において全国・県より上回った。特に「情報の扱い方に関する事項」においては、全国・県より大きく上回っている。また、「読むこと」においては、全国より県は下回っているが、本市は全国より上回った。評価の観点別に見ると「知識・技能」において、全国・県より下回っているものがあり、言語事項についての知識を、文章や文脈の中で関連付けて判断・活用する場面に課題が見られる。
- 問題形式別に見ると、「選択式」「短答式」「記述式」すべてにおいて、全国・県を上回ってはいるが、「記述式」の無回答率は高い傾向が見られる。

【課題】単語の類別について理解すること。

1二は、単語の類別について理解しているかどうかをみる趣旨の問題である。

本市では、正答率は国と県より低い。国と県と比較すると、「投げられる」の説明について「投げる」という動詞と「られる」という助詞でできていると解答している生徒が多いことから、助動詞「られる」と助詞を誤って捉えたものと考えられる。単語の分類について、自立語と付属語を類別することはできているが、助詞と助動詞を類別することに課題があると考えられる。

指導のポイント

- 単語の類別について理解するために、次のような学習課題が考えられる。
 - ・文中の単語を取り上げ、「自立語」と「付属語」に分類し、それぞれの特徴や文中での働きを確認する活動を繰り返し行う。
 - ・動詞、形容詞、形容動詞、名詞、助詞、助動詞などの品詞について、名称を覚えるだけでなく、「自立語か付属語か」「活用するか」「文中でどのような働きをするか」という観点から整理する。
 - ・同じような語句を含む複数の文を比較し、単語の切れ目や品詞の違いによって、文の意味や働きがどのように変わるのかを考える。
 - ・日常生活や教科書の文章から実際に使われている語句を取り上げ、単語に分けたり品詞を判別したりするなど、既習の文法事項を実際の言語活動と結び付けて学習する。
 - ・単語の類別を単独の知識として終わらせず、文章を書く際に「この語はどのような働きをしているのか」「別の語に置き換えるとどうなるのか」などを考えさせ、文法の知識を表現に生かす場面を設定する。

関 連

解説資料P10～15、報告書P24～31

中学校国語

【課題】文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと。

③一は、文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で正しく使うことができるかどうかをみる趣旨の問題である。

本市では、正答率は国よりは高い。国と県と比較すると、文脈から意味を捉え「捕る」「撮る」「取る」のいずれを使うのか正しく判断して選ぶことはできているが、「採る」については、文脈に即して正しく漢字を書くことができなかったものと考えられる。

指導のポイント

- 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で正しく使うために、次のような学習課題が考えられる。
 - ・各学年の語彙の指導の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、「文脈からどの漢字を使うのが適切か」を判断する学習を取り入れる。
 - ・一人一台端末を活用して文章を作成する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択することができるようにする。
 - ・漢字を選択した後に「なぜこの漢字を使うのか」を言葉で説明させることで、漢字の意味と文脈との関係を意識できるようにする。
 - ・意味の取り違えが生じやすい漢字・語句を取り上げ、「辞書で調べる→文脈に当てはめる→適切か確かめる」という学習過程を習慣化する。
 - ・文章を書く活動の中で、漢字を正しく書くだけでなく、「意味に合った漢字を使えているか」「語句の使い方は適切か」という観点から推敲する時間を設ける。

①

取る
必要な物を入れて、集める。
「きのこを**取る**」

撮る
持つ。握る。得る。除く。
「手に取って見る」
「免許を取る」

捕る
つかまえる。
「魚を捕る」
「外野フライを捕る」

撮る
カメラなどで写す。
「写真を撮る」
「記録映画を撮る」

「石井さんが書き加える一文」

何をして遊ぶか多数決をとる子どもたち、飼いの美しい山を眺める人

「文書作成ソフトに表示された意味と用例」

②

「文書作成ソフトに表示された意味と用例」を参考にし、
「石井さんが書き加える一文」の「撮る」と「取る」の漢字の組み合わせとして最も適切なものを、次の1から3までの中から一つ選びなさい。

3 2 1
ア ア ア
取る 撮る 撮る
イ 取る 撮る

③

「石井さんが書き加える一文」の「多数決をとる」と「文書作成ソフトに表示された意味と用例」の「撮る」の「撮る」は同じ漢字が入ります。「多数決をとる」の「撮る」は撮るを漢字に直し、横書きでいいに書きなさい。

関連

解説資料P27～37、報告書P44～57（授業アイディア例も含む）

中学校国語

【課題】語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えること。

4二は、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる趣旨の問題である。本市では、正答率は県よりは高い。国と県と比較すると、本文中から「ありありと映し出している」「心に思い描く」「包括的な含んだイメージを得る」以外の表現を抜き出して解答している生徒が多いことから、本文の中から「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を見付けることができなかったものと考えられる。

指導のポイント

- 語句の意味を文脈に即して捉える力を身に付けるために、次のような学習内容が考えられる。
 - 文章中の分からない語句について、まず辞書的な意味を確認した上で、「この文章ではどのような意味で使われているのか」を前後の叙述から考える活動を行う。
 - 一つの語句について、複数の例文を比較し、同じ語句でも文脈によって意味やニュアンスが変化することに気付けるようにする。
 - 語句の意味を判断するときに、前後の一文だけでなく、段落全体や文章全体の内容に目を向け、「何について説明しているのか」「筆者は何を伝えようとしているのか」と関連付けて考えられるようにする。
 - 読解の際に、重要語句について「辞書的な意味→本文での意味→その語句が文章の中で果たす役割」の三段階で整理する習慣を身に付けることで、語彙の理解を文章全体の読解につなげられるようにする。

ほうふつ【彷彿】①はつきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。②おぼろげなさま。はつきりしないさま。

【国語辞典に載っていた意味】

二 林さんは、――源部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の「国語辞典に載っていた意味」を読むと、⑤段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつあることに気が付きまし
た。【国語辞典に載っていた意味】を参考にし、それらの表現のうちどれか一つを⑥段落の中から抜き出しなさい。

関 連

解説資料P38～46、報告書P58～70（授業アイデア例を含む）

中学校数学

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は、全国や県より大きく上回っている。
- 領域別に見ると、平均正答率は下のとおりである。
 - 「A 数と式」：全国より大きく上回っており、県より上回っている。
 - 「B 図形」：全国よりやや下回っているが、県より大きく上回っている。
 - 「C 関数」：全国・県より上回っている。
 - 「D データの活用」：全国・県より大きく上回っている。

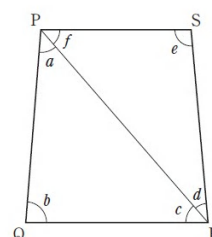
【課題】2直線が平行線になるための条件を理解する。

③は、2直線が平行になるための条件を理解し、二つの角の位置関係を捉えることができるかどうかをみる問題である。

「 $PS \parallel QR$ を示すためには、どの2つの角が等しいことをいえばよいか」について考察する活動を取り入れることが考えられる。この活動を通して、「錯角が等しければ2直線は平行である」ことを根拠に、錯角である $\angle c$ と $\angle f$ が等しければ $PS \parallel QR$ となると判断できるようにすることが大切である。

錯角となる適切な角のペアが見つけれられていないこと、平行線になるための条件と平行四辺形になるための条件を混同するなどの誤答が考えられる。四角形を変形しながら、錯角が等しいことと2直線が平行であること関連付けを理解する必要がある。

③ 下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。



上の図において、 $\angle a$ から $\angle f$ までの6つの角のうち、ある2つの角の大きさが等しければ、 $PS \parallel QR$ であるといえます。その2つの角を書きなさい。

指導のポイント

○令和2年度【中学校】数学7「三角形から四角形」で取り上げたように、手順によってできた四角形について考察する場面を設定することが考えられる。具体的には、手順によってできた四角形ABEFは、点Eをどの位置にとっても、常に $AF \parallel BE$ の四角形になると予想し、図2を基にして、平行線や角の性質を根拠として $AF \parallel BE$ となることを証明する場面を設定することが考えられる。その際、手順における操作から、錯角である $\angle FAD$ と $\angle BCD$ 、 $\angle AFD$ と $\angle CED$ がそれぞれ常に等しいことを捉え、それを根拠として、四角形ABEFが $AF \parallel BE$ の四角形であることを証明できるようにすることが大切である。

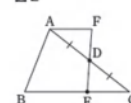
関 連

解説資料P15～16、報告書P28～30

手順

- ① 辺ACの中点に点Dをとる。
- ② 辺BC上に点Eをとる。ただし、点Eは点B、Cと重ならないものとする。
- ③ 点Dと点Eを結んでできた線分DEにそって切る。
- ④ $\triangle DEC$ を点Dを回転の中心として反時計回りに 180° 回転移動させる。

図2



中学校数学

【課題】 2つの数量関係を捉え、反比例の関係を見い出すこと

4関数を用いて事象を捉え考察する場面では、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出して、その変化や対応の様子に着目して関数関係を見だし、その関数の特徴を調べるために、二つの数量関係を表、式、グラフで表現することが大切である。

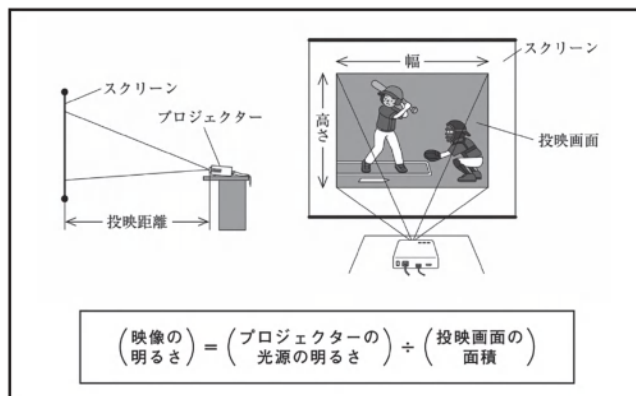
反比例の表から二つの数量の変化や対応の特徴を捉えたり、それらの特徴を基に x の値に対応する y の値を求めたりする活動を取り入れ、反比例の意味の理解を深めることができるように指導することが大切である。本問を使って授業を行う際には、単に当てはまる数を求めるだけでなく、その数である理由を反比例の性質などを基に説明する活動を取り入れることが大切である。具体的には、 $y = ax$ という式で表されることや、「 x の値が2倍、3倍、…になると、 y の値が $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍、…になる」や「 x と y の積が一定である」といった性質を基にした説明を取り上げることを通して、反比例について振り返ることができるようにすることが大切である。

4 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。□ に当てはまる数を求めなさい。

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	...
y	...	□	-6	-12	$\frac{0}{0}$	12	6	...

指導のポイント

○平成27年度【中学校】数学B 1「プロジェクター」で取り上げたように、映像の明るさと投映画面の面積の関係を捉える場面を設定することが考えられる。投映画面の面積が大きくなるにつれて映像の明るさが暗くなるという事象の観察を通して、投映画面の面積と映像の明るさが関数関係にあることを捉えられるようにすることが大切である。その上で、映像の明るさと投映画面の面積の関係が「(映像の明るさ) = (プロジェクターの光源の明るさ) ÷ (投映画面の面積)」という式で表されることから、式の形に着目し、映像の明るさは投映画面の面積に反比例することを見いだせるようにすることが大切である。また、投映画面の高さをスクリーンに合わせるために、投映画面の高さと投映距離の関係を調べ、投映画面の高さは投映距離に比例することを見いだすなど、同じ事象から取り出す数量を変更し、比例や反比例の関係を見いだす場面を設定することも考えられる。



関連

解説資料P31～33、報告書P34～36（授業アイデア例を含む）

中学校数学

【課題】筋道を立てて証明し、図形を考察すること

⑧(2)一つの鋭角について、その2倍の大きさの角を作図する方法について考察する場面を取り上げた。図形の性質について考察する場面において、考察の対象となる辺や角の関係などを的確に捉えることができるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、元の角である $\angle XOY$ と手順にしたがって作図した $\angle POB$ との関係について捉える活動を取り入れることが考えられる。その際、 $\angle XOY$ の大きさが何度であっても、 $\angle POB$ の大きさがいつでも $\angle AOB$ の大きさの2倍であることから、「 $\angle AOB = \angle AOP$ 」や「 $\angle POB = 2\angle AOB$ 」と表現したり、 $\angle AOB = a^\circ$ として $\angle POB = 2a^\circ$ と表したりするなど、考察の対象となる角の関係を捉えることができるように指導することが大切である。次に、示された手順とは異なる作図の方法について、その方法で2倍の大きさの角が作図できることを証明する場面を取り上げ、証明するために必要な事柄を見いだす。

(2) 前ページの手順で作図した $\angle POB$ が $\angle XOY$ の2倍の大きさであること、つまり $\angle AOB = \angle AOP$ であることを証明します。図1は、手順の④の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。図1において、 $AB = AP$ 、 $OB = OP$ は手順から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

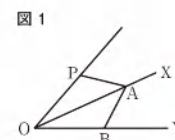


図1において、
 $AB = AP$ 、 $OB = OP$ ならば $\angle AOB = \angle AOP$ である。

上のことがらが成り立つことは、 $\triangle AOB \cong \triangle AOP$ を示すことで証明できます。下の証明を完成しなさい。

証明

$\triangle AOB$ と $\triangle AOP$ において、

合同な図形の対応する角は等しいから、
 $\angle AOB = \angle AOP$

指導のポイント

○方針を立て、証明することができるようにする。

証明ができるようにするためには、仮定や仮定から分かること、結論を導くために必要なことを明らかにし、証明の方針を立てることが大切である。その方針に基づき、推論の過程を数学的に表現できるように指導する必要がある。本設問を授業で扱う際には、まず証明すべき事柄をはっきりさせ、その根拠を探す活動を取り入れるとよい。また、手順によって作図する過程や作図してできた図形を確認しながら、「点Oや点Aを中心にコンパスを用いて弧をかいたことから分かることは何か」、「二つの三角形がくっついている様子から分かることは何か」など、各操作や図形の特徴などから見いだせる関係を整理しながら、証明を進めることができるように指導することが大切である。

関連

解説資料P36～42、報告書P59～71（授業アイデア例を含む）

中学校英語

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は、全国・県とほぼ同じである。
- 領域別に見ると、「聞くこと」、「読むこと・書くこと」において、全国・県とほぼ同じである。
- 平均IRTスコアは、全国とほぼ同じであり、県よりやや上回っている。
※IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の英語4技能を統合したものの。IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出。
- 問題形式別に見ると、「短答式」「記述式」の正答率が下回っている。

【課題】短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く

10 (1) の問題は、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることができるかどうかを把握することをねらいとしている。

「要点を捉える」ためには、文章全体を読み通した上で、複数の情報を取り出し、どの情報がその説明の中で最も重要であるかを判断することが求められる。

インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する(1)の正答率は県とほぼ同じであるが、国の正答率を下回っている。”We can find…”と助動詞を用いた文章を、書き手が最も伝えたいことだと誤って捉えたり、大事なことは文章全体の最後に書かれていると誤って捉えたりした可能性も考えられる。

指導のポイント

- 英語で書かれた文章（意見文）を読んで、文章が「書き手が最も伝えたいこと（主張）」と、それを支える理由（例示・経験・比較など）で構成されていることを指導することが大切である。
- 書き手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合う活動を設定する。文章を読んで、要点を捉えるためには、文章を読んだ後で、書き手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えたのかをペアやグループで話し合う。事実と考えに分けて文章の構成を確認させたり、考えを伝える表現や、例示をするための表現などに着目させたりすることで、他の文章を読んでも要点を捉えることができるように指導することが大切である。
- スピーチ、新聞、ホームページなどへの投稿文の形式で書かれた文章を読み、書き手が最も伝えたいことを捉える活動も必要である。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly. Do you think my opinion is good?

<解答例>

- 1 Many junior high school students use the internet to play games.
- 2 Junior high school students should use the internet for learning more often.
- 3 There are many good videos for learning English.
- 4 We can find the meaning of an English word quickly.

関 連

解説資料P36～38、報告書P76～80

中学校英語

【課題】短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く

10 (2) の問題は、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかを把握することをねらいとしている。

インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く (2) の正答率は国や県の正答率を上回っているが、他の問題の正答率と比べて低かった。また、無答率は、国や県よりも上回っており、他の問題よりも無答率が高かった。”I agree with you.” など、書き手の意見に対する自分の意見は書いているが、その理由が書けていなかったり、内容が矛盾していたりするなど、条件を満たさないで回答している反応率が高かった。賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、自分の意見に対する理由を考えたり、書いたりすることが課題といえる。

指導のポイント

○ 文章を読んで要点を確認した後、自分の考えをキーワードとしてメモなどに整理させたり、思考ツールに整理させたりすることが大切である。また、ペアでやり取りさせ、話題に関する理解を深めてからメモに整理させることも必要である考える。

○ “I agree / don't agree with… because…” などの表現を用いて書き手の意見に対する賛否とその理由などを話した後に、話した内容を 1～2 文程度で書かせることが考えられる。また、書いた文章を互いに読み合い、自分が書いた文章に必要な内容を書き加えるなど、簡単な「書くこと」の活動を繰り返し行うことが大切である。

○ 正確に書く力を高めるために、自分の考えとその理由が伝わるかという視点から、語句の選択、語順などの文構造、動詞の活用、語の綴りなどについて生徒同士でコメントし合ったり、辞書、インターネット、AI等を活用したりして、表現の誤りを訂正できるようにすることも必要である。

<解答欄> ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

関 連

解説資料 P 38～40、報告書 P 81～89（授業アイディア例を含む）

中学校英語

【課題】まとまりのある文章を書く

14の問題は、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを把握することが趣旨となっている。

この問題の本市の正答率は国・県を上回っているが、正答率は低い。

正答の条件として、①15語以上30語以内の英語で書いている。②学校で普段行うことを1つ取り上げて書いている。③条件②についての説明を書いていることが挙げられるが、特に本市では、条件①、条件③を満たし、条件②を満たさないで解答しているものや無解答の割合が高かった。これは、学校での出来事や生活等、

日常的な話題についての事実とそれに対する自分の考え絵や気持ち等、まとまりのある文章を書くことに慣れていないことが考えられる。また、条件②が十分でないことについては、” Our school...” や...” We...” といった主語を用いて書いたり、文法的に誤りある文章を書いたりすることが考えられる。



【例】

- ・朝の読書活動
- ・授業
- ・給食
- ・清掃
- ・その他

指導のポイント

○まとまりのある文章を書くためには、まとまりのある文章を読み、書かれている文章の構成を理解するなど、読む活動を充実させる必要がある。一貫性のある文章を読み、文と文の関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落との関係など、文章の構成を理解させることが大切である。

- ・ テーマについての事実や自分の考え、気持ちなどを整理させる活動を取り入れる。話題について書く内容が浮かぶようにするため、書く前に話題に関連するキーワードでメモを整理したり、メモをもとにペアでやり取りを繰り返し、友達の考えや表現を参考に自分の考えを書かせるなど、「話すこと」と「書くこと」の領域を統合した指導を行ったりすることも大切である。
- ・ 接続詞（because, and, but, soなど）を用いて複文や重文にしたり、代名詞（he, she, it, theyなど）を用いて文と文のつながりを意識させたりして、3文程度の短い文章を書くことを繰り返し行い、文と文のつながりなどに注意しながら文章を書く時間を確保する。

関 連

解説資料P 55～58、報告書P 105～109（授業アイデア例を含む）